

# ADOGAWA ELECTRONICS co.ltd.

## 安曇川電子工業新工場竣工のご案内

安曇川電子工業株式会社  
工場増築工事  
2022年11月～2023年4月

安曇川電子工業株式会社  
代表取締役社長 岸田 定道  
製造部 部長 大藤 淳  
品質保証部 部長 鈴山 安裕

株式会社澤村  
代表取締役 澤村 幸一郎  
建設プロデューサー 北脇 秀一  
設計 中村 孝史  
施工管理 廣部 敦也  
施工管理 飯田 辰留  
空間コーディネーター 中島 浩子  
外構植栽 東村 圭祐

Build by **SAWAMURA**



住環境機器や通信インフラに関する製品など、

人の暮らしを快適にするものづくりを。

1968年の創業以来、その営みに真摯に向き合ってきた

安曇川電子工業の新工場が竣工しました。

3拠点を一つにまとめた新工場のテーマは、「テーマパークのような工場」。

こだわりぬいた意匠性と遊び心を取り入れたのは、

社員のチームワークをいっそう強化し、

お客様に喜ばれるものづくりサービスを提供するため。

“心を磨き 技を磨き 社会発展に貢献します”

経営理念を未来に継承する、

新たな安曇川電子工業が、はじまります。

**安曇川電子工業は、ワンチームへ。**

**より一丸となれる新工場が完成しました。**



オープンファクトリーや工場見学など  
お客様をご案内できるようフロアを囲む通路は広めに。



開放感あふれる搬入、搬出スペース。



作業効率を上げる  
広々とした作業スペース。



工場入口付近に  
“工場らしくない”カフェ風スペース。



木目調の設えでリラックスしながら  
ランチや休憩タイムを。



2階にも作業スペースを設け  
生産性の向上をめざす。



## Project Interview

member



代表取締役社長  
岸田 定道



製造部 部長  
大藤 淳



品質保証部 部長  
鈴木 安裕

## 誇りをもって働ける。「また来たい、また見たい」と言ってもらえる。 そんな新工場をめざして完成した、“工場らしくない工場”とは。

これまで点在していた生産拠点を一つにまとめた新工場。  
「テーマパークのような新工場」は、どのような経緯で、どのような想いを込めてつくられたのか。  
社長を含む3名のプロジェクトメンバーに語っていただきました。

### 新工場設立の経緯を教えてください。

**岸田** 単刀直入に言うと、中期ビジョンで掲げた売上目標を達成するためです。目標を達成するために何をすべきか逆算して考えたところ、今の工場ではスペースが足りないことが判明したため、「新工場設立」という項目も中期ビジョンの計画の中に入れていました。

**大藤** これまでは3拠点の工場で生産していたのですが、新工場設立により拠点を一つにまとめるという大きなポイントですよね。

**鈴木** 売上UPのため、と言いつつも「せっかくだらないうちのいいものをつくりたい!」ということで、いろんな構想が膨らんでいきました。そういうところも安曇川電子工業のいいところですね。なんでも楽しもうとする姿勢があると思いますか。

**岸田** そうですね。それでいろいろ考えて、「工場らしくない工場」つまり「テーマパークのような工場」を建てよう!ということになりました。



### SAWAMURAさんに依頼する決め手となった理由は何ですか?

**岸田** 個人的な話なんですけど、SAWAMURAさんに私の同級生の友人がおりまして、また、社長とお話したこともありまして、以前からSAWAMURAさんのことはよく知っていました。

**鈴木** それでも大きな予算が動くことなので、SAWAMURAさんを含む2社にお声かけし、ご提案していただきました。

**岸田** その中でSAWAMURAさんに依頼させていただいたのは、「テーマパークのような工場」という私たちの要望を最も理解してくれたからです。これまで手がけられた実績やレスポンスも良く、彼らとなら気持ちよく竣工を迎えられるだろうと。今こうして竣工を迎えて、やっぱりSAWAMURAさんで正解でしたね。



### 外観や内装などのこだわりを教えてください。

**岸田** 「工場らしくない工場」「テーマパークのような工場」というオーダーをSAWAMURAさんに投げかけ、いくつか提案していただき、あれこれやりとりしながら現在のモデルに辿り着きました。

**鈴木** 具体的には、外装に関しては、工場ではめずらしい窯業系サイディングの鏡面仕上げとなっております。コーポレートカラーであるブルーの壁面に周囲の風景が映り込む、スタイリッシュでシャープなデザインです。まさにこれからの安曇川電子工業の“顔”になってくれると思っています。



**大藤** 工事期間中でも足場などで壁面が傷つかないように、慎重に施工されていたのが印象的でしたね。内観では、工場入口付近のカフェ風の休憩室、工場内部のブレース(筋交い)に赤い塗装が象徴的です。

**鈴木** また、オープンファクトリーや工場見学など、お客様をご案内するときのために、フロアの周囲に幅1メートル50センチほどの通路を設けています。

**大藤** 3拠点から各課が集まって生産をするので、これからは工場のいろんな場所で生産が行われていきます。その一つひとつが小さなテーマパークとして、安曇川電子工業の魅力発信のコンテンツになっていくのもいいんじゃないかと考えていますね。

### 新工場とともに創っていく、 将来のビジョンを聞かせてください。

**岸田** 先ほどの話からいくと、大きな方向性としては二つあります。一つは、新工場設立を機に若い社員が、これまで以上に誇りをもって働ける環境にしたいということ。カフェのような休憩室があったり、遊び心のある色使いだったり、仕事が増える要素は非常に大切だと考えています。もう一つは、今後は3拠点が一つになるわけですから、チームワークの強化がさらに必要になります。

**鈴木** それぞれの課が育んできた文化みたいなものがあるので、互いにいいところを真似ていってもらいたいですね。これからは出来高や品質、改善を共有し、切磋琢磨できる環境になればいいと考えています。

**大藤** 実際にコミュニケーションは活発になっていると実感しますね。また、以前にも増して、外にひらいていく工場だと思っています。だからこそ、来ていただいたお客様に「また来たい、また見たい」と言ってもらえるようにしたいですね。

**岸田** 「心を磨き 技を磨き 社会発展に貢献します」という経営理念を体現できる工場だと自負しています。社員が仕事をしながら成長できる場。当社のものづくりで人々の生活を支える場。そんな場を提供することで、多くの人に幸福感を届けたい。その答えの一つが、我々にとっての「テーマパークのような工場」なんだと思います。